

写真撮影可能作品を追加！／パレオアート作家、小田隆さんの講演会を開催 美術館で開催する異色の恐竜展！

特別展「恐竜図鑑—失われた世界の想像／創造」

会期／2023年3月4日（土）～5月14日（日）

会場／兵庫県立美術館

兵庫県立美術館にて、2023年5月14日(日)まで開催中の特別展「恐竜図鑑—失われた世界の想像／創造」は化石の展示がありませんが、「こんな展覧会を待っていた！」と恐竜ファンから熱烈的な支持をいただいています。

本展は、恐竜が“発見”された19世紀の奇妙な復元図から、20世紀にチャールズ・R・ナイトやズデニェク・ブリアンらが躍動する恐竜の姿を生き生きと描き出した絵画作品、漫画・玩具などサブカルチャーの分野やファインアートの領域に登場したイメージ、さらには近年の研究に基づく現代のパレオアート（古生物美術）まで、恐竜をはじめとする古生物のイメージの歴史を概観し、人々の想像力を絶えず刺激し続ける太古の世界の住人たちを紹介しています。化石なし、ホネヌキの、異色かつ大注目の展覧会です。



【NEW】ナイトとブリアン 2大巨匠の作品が撮影可能に！

本展では一部作品の撮影が可能となっていました、「ナイトとブリアンの作品をカメラに収めたい」という熱い要望を受け、第1章と第2章の展示室内での写真撮影を3月25日（土）より可能にします（一部資料は撮影不可）。第4章も一部作品で撮影が可能です。

主な撮影可能作品

第1章 古生物はこう描かれた！



ロバート・ファレン《ジュラ紀の海の生き物—ドゥリア・アンティキオル（太古のドーセット）》1850年頃
油彩・カンヴァス 190×268cm ケンブリッジ大学セジウィック地球科学博物館
© 2023. Sedgwick Museum of Earth Sciences, University of Cambridge. Reproduced with permission

第2章 ナイト vs ブリアン 二大巨匠の競演



チャールズ・R・ナイト《トリプトサウルス（飛び跳ねるラエラス）》
1897年 グアッシュ・厚紙 40×58cm
アメリカ自然史博物館、ニューヨーク
Image #100205624, American Museum of Natural History Library



ズデニェク・ブリアン《イグアノドン・ヘルニサルテンシス》
1950年 油彩・カンヴァス 60 x 48cm
モラヴィア博物館、ブルノ
© Jiří Hochman - www.zdenekburian.com and Fornuft s.r.o. / Moravské zemské muzeum, Brno



ニーヴ・パーカー《ヒプシロフォドン》
1950年代 グアッシュ、インク・紙 52.7×37cm
ロンドン自然史博物館
© The Trustees of the Natural History Museum, London

第4章 科学的知見によるイメージの再構築



徳川広和《シノサウロプテリクス》
2022年 石粉粘土 50×30×10cm
徳島県立博物館

[NEW] SNS恐竜図鑑大賞

恐竜図鑑展の感想をTwitter、Instagramで募集します。
#恐竜図鑑 を入れて 4/23 (日) までに投稿してください。恐竜への熱い思いを感じた投稿者計10名様に恐竜図鑑展B 2ポスターをプレゼントします。当選者への連絡は DM を使用しますので下記アカウントをフォローしてください。
Twitter: @kyoryu_zukan Instagram: kyoryu_zukan

[NEW] こどもたちの鑑賞を応援

春休みのこどもたちを楽しみながら学べるように「おやこ鑑賞ガイド」をご用意しています。展示室で恐竜探検ができるような仕掛けになっています。展覧会HPからもダウンロードできます。

【恐竜図鑑ホームページ】 <https://www.ktv.jp/event/zukan/>



[NEW] パレオアート作家、小田隆さんの講演会を開催

記念講演会「古生物の復元」(仮題)

講師: 小田隆 (パレオアート作家、京都精華大学教授)

内容: 現代を代表するパレオアーティストが、古生物学者とのコラボレーションにより作品を完成させるまでの過程を詳しく解説します。

日時: 4月8日 (土) 14:00~15:30 (開場13:30)

場所: 兵庫県立美術館ミュージアムホール

参加費: 無料 ※ただし本展の観覧券が必要です (半券可)

定員: 110名 (先着順)



小田隆《篠山層群産動物の生態環境復元画》2014年
アクリル・カンヴァス 115×160cm 丹波市立丹波電化石工房

©小田隆 / 丹波市

※小田隆さんの作品も展示室で写真撮影可能です。

- 【見どころ①】 君たちは誰？ 初期の奇妙な復元画
- 【見どころ②】 ナイト vs ブリアン！ パレオアートの2大巨匠が夢の競演
- 【見どころ③】 書籍、玩具からアートまで、日本に溢れた恐竜たち
- 【見どころ④】 現代の恐竜画の旗手たちが集結

【見どころ①】 君たちは誰？ 初期の奇妙な復元画

本展の冒頭を飾るのは、19世紀の恐竜“発見”から間もない時期に描かれた、パレオアート黎明期の作品群です。

地質学者ヘンリー・デ・ラ・ビーチの原画による「ドゥリア・アンティキオル（太古のドーセット）」は、英国の女性化石採集者、メアリー・アニングの功績をたたえるために制作された版画で、古生物の生態を復元した史上初の絵画のひとつと言われています。魚竜イクチオサウルスが首長竜プレシオサウルスを捕食しているさまが描かれています。本展では、デ・ラ・ビーチの原画に基づくジョージ・シャーフの版画に加え、これを拡大したロバート・ファレンによる油彩画を出品します。

また、ジョン・マーティンによる「イグアノンの国」は、イグアノンの化石を発掘し、“恐竜を発見した男”として知られるギデオン・マンテルの依頼により描かれた作品で、油彩画をもとにした版画はマンテルの『地質学の驚異』の口絵を飾りました。聖書や神話を題材とした作品で人気を博した当時の有名画家・マーティンが描いた太古の世界は、多くの人々に古代への関心をもたらしました。イグアノンだけでなく、それを取り巻く風景もロマンティックに描き出されています。

19世紀の復元画は、魚食のイクチオサウルスが巨大な首長竜を食べているなど、現代の我々から見ると奇妙に映りますが、歴史的価値とともに、その奇妙さもまた魅力です。限られた情報のもと、想像をばたかせて太古の世界を描き出した初期のアーティストたち。彼らのイマジネーション豊かな作品の数々をご覧ください。

[2]



ロバート・ファレン《ジュラ紀の海の生き物—ドゥリア・アンティキオル（太古のドーセット）》
1850年頃 油彩・カンヴァス 190x268cm セジウィック地球科学博物館、ケンブリッジ

© 2023. Sedgwick Museum of Earth Sciences, University of Cambridge. Reproduced with permission

[3]



ジョン・マーティン《イグアノンの国》1837年 水彩・紙 30.2x42.6cm
ニュージーランド国立博物館テ・パパ・トンガレウ、ウェリントン

Gift of Mrs Mantell-Harding, 1961. Te Papa (1992-0035-1784)

【見どころ②】 ナイト vs ブリアン！ パレオアートの2大巨匠が夢の競演

チャールズ・R・ナイトは、19世紀末から20世紀前半にアメリカで活躍したパレオアートの歴史上最大の巨匠です。もともと野生動物画家だったナイトは、生物学的知見に基づき、恐竜をいきいきとした姿で描き現代に蘇らせました。彼の作品は、アメリカ自然史博物館やフィールド博物館で使用されたほか、映画「ロスト・ワールド」（1925年）や「キング・コング」（1933年）などにも影響を与えました。ティラノサウルスとトリケラトプスの対決を描いた「白亜紀—モンタナ」や恐竜を躍動感あふれる姿でとらえた「ドリフトサウルス（飛び跳ねるラエラプス）」は恐竜画における記念碑的イメージです。

[4]



チャールズ・R・ナイト《白亜紀—モンタナ》1928年 油彩・カンヴァス 38.1x96.5cm
プリンストン大学

Trustees of Princeton University / Image courtesy of the Princeton University Art Museum

[5]



チャールズ・R・ナイト《ドリフトサウルス（飛び跳ねるラエラプス）》1897年
グアッシュ・厚紙 40x58cm アメリカ自然史博物館、ニューヨーク

Image #100205624, American Museum of Natural History Library

一方、ナイトより少し後の世代の画家ズデニェク・ブリアンは、20世紀中盤から後半にかけてチェコスロバキア（現チェコ共和国）で活動しました。当時の化石発掘の中心地であったアメリカから遠く離れた東欧圏は、直接化石を研究できる機会が限られていました。その環境にありながら、ヨーロッパ美術のリアリズムの伝統を踏まえた彼の作品は、強い説得力を持つものとして国際的に高く評価されました。また、本展では、この二大巨匠に加え、イギリスで活躍したイラストレーター、ニーヴ・パーカーの有名な恐竜画も展示します。

彼らの作品は、日本の図鑑などにも模写され、恐竜イメージの普及に大きな影響を与えました。かつての少年少女が胸おどらせ夢中で読んだ恐竜図鑑—そこに描かれた憧れの恐竜画のオリジナルが一堂に会します。



[6]

ズデネック・ブリアン《イグアナドン・ヘルニサルテンシス》1950年 油彩・カンヴァス 60x48cm
モラヴィア博物館、ブルノ
© Jiří Hochman - www.zdenekburian.com/ and Fornuft s.r.o. /
Moravské zemské muzeum, Brno



[7]

ニーヴ・パーカー《ヒブシロフォドン》1950年代 グアッシュ、インク・紙 52.7x37cm
ロンドン自然史博物館 © The Trustees of the Natural History Museum, London

【見どころ③】 書籍、玩具からアートまで、日本に溢れた恐竜たち

19世紀に欧米で成立した恐竜のイメージは、世紀末には日本にも移入されました。古生物学者・横山又次郎によって「恐竜」という訳語が作られて以来、科学雑誌や啓蒙書、子供向けの漫画や絵物語、ジュール・ヴェルヌの『地底旅行』（1864年）やコナン・ドイルの『失われた世界』（1912年）といった古典SFの翻訳など、恐竜を主題にした出版物が広く刊行されることになりました。これと並行して、恐竜の姿を模した玩具模型が多数制作され、今日では恐竜人気を支える中心的アイテムのひとつとなっています。

本展では、国内有数の恐竜アイテムの収集家である田村博氏のコレクションによって、明治から昭和にかけて我が国の文化史に登場する様々な恐竜を紹介します。また、恐竜をテーマにした数々の漫画を手掛けた所十三の代表作『DINO²（ディノ・ディノ）』の貴重な原画も展示します。

恐竜はまた、一般的な美術、いわゆるファインアートの領域でもしばしば象徴的なモチーフとして登場します。美術における恐竜のシンボリズムについて、福沢一郎や立石紘一など、いくつかの作例で紹介します。



[8]

福沢一郎《爬虫類はびこる》1974年
アクリル・カンヴァス 181.8x227.3cm
富岡市立美術館・福沢一郎記念美術館



[9]

立石紘一《アラモのスフィンクス》1966年
油彩・カンヴァス 130.3x162cm
東京都現代美術館

【見どころ④】 現代の恐竜画の旗手たちが集結

1960年代から70年代にかけて、「恐竜ルネッサンス」ともよばれる大きな変革もたらされます。「鈍重な生き物」から「活発に動く恒温動物」へと恐竜像が変化したことに伴い、恐竜画もさらなる進化を遂げ、新しい表現のアーティストが次々と登場します。

本展では、インディアナポリス子供博物館や福井県立恐竜博物館のコレクションから、ウィリアム・スタウト、ダグラス・ヘンダーソン、グレゴリー・ポールなど現代の恐竜画の旗手たちのバラエティ豊かな作品群が集結します。

ファンタジーアートの領域でもカルト的な人気を誇るアメリカのイラストレーター、ウィリアム・スタウト、パステルを駆使して太古の世界の光と影を精緻に表現するダグラス・ヘンダーソンなど、彼らの作品が原体験となっている恐竜ファンも多いのではないのでしょうか。

また、現代日本を代表するパレオアーティスト、小田隆の迫力ある作品も特集します。CGを用いずに圧倒的な迫真性を生み出す肉筆画は必見です。きら星のごとき現代スター作家たちの競演をお楽しみください。



[10]

ダグラス・ヘンダーソン《ティラノサウルス》1992年 パステル・紙 36.8x68.6cm
インディアナポリス子供博物館（ランツェンドルフ・コレクション）
Courtesy of The Children's Museum of Indianapolis © Douglas Henderson



[11]

小田隆《森山層群産動物の生態環境復元画》2014年 アクリル・カンヴァス
115x60cm 丹波市立丹波竜化石工房 ©小田隆/丹波市

関連イベント

【学芸員による解説会】

日時：4月22日（土）各日15：00～（約45分）

会場：レクチャールーム

定員：50名（先着順）

【こどものイベント】

詳細が決まり次第、兵庫県立美術館ホームページにてお知らせします。

問い合わせ先：こどものイベント係（TEL:078-262-0908）

開催概要

展覧会名：特別展「恐竜図鑑－失われた世界の想像／創造」

会 期：2023年3月4日（土）～5月14日（日）

開館時間：10：00～18：00（入場は17：30まで）

休 館 日：月曜日

会 場：兵庫県立美術館

主 催：兵庫県立美術館、産経新聞社、関西テレビ放送

協 賛：DNP大日本印刷、公益財団法人伊藤文化財団

特別協力：公益財団法人日本教育公務員弘済会 兵庫支部

企画協力：小田隆（画家・京都精華大学教授）／徳川広和（古生物造形作家・株式会社ACTOW代表）

田村博（ジャズピアニスト・恐竜グッズ収集家）／エリック・ビュフトー（古生物学者・フランス国立科学研究センター名誉研究部長）

制作協力：ウイステリアート

観 覧 料：

	一般	大学生	70歳以上	障がいのある方 （一般）	障がいのある方 （大学生）
当日	2,000円	1,500円	1,000円	500円	350円
団体	1,600円	1,200円	800円	400円	300円

※高校生以下無料

※団体は20名以上。団体鑑賞をご希望の場合は1か月前までにご連絡ください。

※障がい者手帳等をお持ちの方1名につき、介助者1名は無料

※予約制ではありません。混雑時は人数制限を行いますのでお待ちいただく場合があります。

※一般以外の料金でご利用される方は証明書を当日ご提示ください。

※コレクション展は別途観覧料が必要です（本展とあわせて観覧される場合は割引があります）。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、会期等予定を変更する場合がございます。最新の情報は展覧会HP等をご確認ください。

お問合せ：兵庫県立美術館 078-262-1011

兵庫展公式HP：<https://www.ktv.jp/event/zukan/>

展覧会公式HP：<https://kyoryu-zukan.jp/>

展覧会公式Twitter：https://twitter.com/kyoryu_zukan (@kyoryu_zukan)

【主なチケット発売場所】

公式オンラインチケット、イープラス、ローソンチケット【Lコード：52359】、チケットぴあ【Pコード：686-273】、セブンチケット【セブンコード：098-070】、CNプレイガイド ほか

【広報画像申込書】 特別展「恐竜図鑑 – 失われた世界の想像／創造」

広報用画像を提供いたします。ご希望の場合は、下記よりお申込みください。

【申込フォーム】 <https://forms.gle/b2qdeGXbZBRRBNFV6>

※入力難しい場合は、本書を広報事務局までお送りください。



【広報用画像使用に関する注意事項】

- 本展広報目的での使用に限ります（会期終了まで）。使用後は、データの破棄をお願いいたします。
- 展覧会名、会期、会場、画像・クレジットは必ず記載してください。
- 作品画像は全図でご使用ください。トリミング、文字寄せなどの加工・改変はできません。
- 転載、再放送など、二次使用される場合は別途申請をお願いいたします。なお、展覧会終了後の二次使用はできません。
- webサイトに掲載する場合は、72dpi 以下、400×400pixel 以下の解像度にし、コピーガードをかけてご掲載ください。
- 基本情報、画像使用などの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階のものを「広報事務局」にお送りください。
- 掲載・放送後は、必ず掲載紙（誌）、同録DVDを下記「広報事務局」までお送りください。

【広報画像・キャプション一覧】 ご希望の画像番号の□に✓をお願いします。

番号	クレジット一覧
1□	チラシビジュアル※クレジットなし
2□	ロバート・ファレン《ジュラ紀の海の生き物—ドゥリア・アンティキオル（太古のドーセット）》1850年頃 油彩・カンヴァス 190×268cm ケンブリッジ大学セジウィック地球科学博物館 © 2023. Sedgwick Museum of Earth Sciences, University of Cambridge. Reproduced with permission
3□	ジョン・マーティン《イグアノドン》1837年 水彩・紙 30.2×42.6cm ニュージーランド国立博物館テ・パパ・トンガレワ、ウエリントン Gift of Mrs Mantell-Harding, 1961. Te Papa (1992-0035-1784)
4□	チャールズ・R・ナイト《白亜紀—モンタナ》1928年 油彩・カンヴァス 38.1×96.5cm プリンストン大学 © Trustees of Princeton University / Image courtesy of the Princeton University Art Museum
5□	チャールズ・R・ナイト《ドリフトサウルス（飛び跳ねるラエラプス）》1897年 グアッシュ・厚紙 40×58cm アメリカ自然史博物館、ニューヨーク Image #100205624, American Museum of Natural History Library
6□	ズデネク・ブリアン《イグアノドン・ベルニサルテンシス》1950年 油彩・カンヴァス 60×48cm モラヴィア博物館、ブルノ © Jiří Hochman - www.zdenekburian.com/ and Fornuft s.r.o. / Moravské zemské muzeum, Brno
7□	ニーヴ・パーカー《ヒプシロフォドン》1950年代 グアッシュ、インク・紙 52.7×37cm ロンドン自然史博物館 © The Trustees of the Natural History Museum, London
8□	福沢一郎《爬虫類はびこる》1974年 アクリル・カンヴァス 181.8×227.3cm 富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館
9□	立石紘一《アラモのスフィンクス》1966年 油彩・カンヴァス 130.3×162cm 東京都現代美術館
10□	ダグラス・ヘンダーソン《ティラノサウルス》1992年 パステル・紙 36.8×68.6cm インディアナポリス子供博物館（ランツェンドルフ・コレクション） Courtesy of The Children's Museum of Indianapolis © Douglas Henderson
11□	小田隆《篠山層群産動物の生態環境復元画》2014年 アクリル・カンヴァス 115×160cm 丹波市立丹波竜化石工房 ©小田隆/丹波市

貴社名／	ご所属部署／
ご担当者／	TEL／
E-mail／	
貴媒体名／	媒体種／
掲載号・露出予定日／	月号（ 月 日号）／ 月 日発売予定 □WEBへの転載あり
サイトURL／	
媒体プレゼント用チケット／□希望（2組4名まで）※1点以上の広報用画像使用必須	
お送り先／〒	

【報道に関するお問合せ】

特別展「恐竜図鑑 – 失われた世界の想像／創造」広報事務局（ネネラコ内）

E-MAIL / zukan-kobe@nenelaco.com TEL / 06-6225-7885 FAX / 06-7635-7587

〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル